

東北復興応援企画 稲刈り2016

親子で稲刈り体験&行こうよ!みやぎ♪観光地ツアー

2016年10月1日(土)～2日(日)実施

2010年より、JA全農みやぎとサークルKサンクスは共同で、みやぎの環境保全米「ひとめぼれ」の田植えおよび稲刈り体験ツアーを開催してきました。このツアーは、親子で楽しく農業体験をし、米づくりを学んでいただくとともに、東日本大震災被災地である宮城県への訪問と観光を通して、東北地方の復興に貢献することを目的として実施しました。

当日は、この企画に応募し、当選した関東・中部・関西の親子20組40名が参加し、稲刈り体験と宮城県観光を楽しみました。

参加者の皆さんと刈り取った稲は、この後、乾燥や脱穀などの工程を経て、11月頃からそのお米を使ったおにぎりやお弁当としてサークルKとサンクスのお店に並びます。



Report

1日目：青空の下、たわわに実った稲を刈り取りました！

関東からの参加者は新幹線で、中部と関西からの参加者は飛行機で仙台に集合し、バスで宮城県石巻にある(有)サンダーファーム牛田(うした)(西条静悦さん圃場(※1))に向かいました。車中、バスガイドさんが「今、走っているこのあたりまで津波が押し寄せたんですよ。」と話してくれましたが、東日本大震災から5年半経った今、仙台市内にはそんな面影は残っておらず、信じられない思いです。

バスに揺られ40分あまり、稲刈りの圃場に到着！稲刈り当日は、地元の方が「こんなに良く晴れたのは久しぶり！」というほどの晴天に恵まれ、青空の下、圃場には黄金に輝く沢山の稲穂が広がっていました。

宮城県JAいしのまきの皆さんから昔ながらの稲の刈り方、束ね方を説明していただき、いよいよ稲刈り開始です。



(※1) 圃場(ほじょう)：作物を栽培する田畑のこと

稲刈りは初めてのこども達も鎌を上手に使って、次々に稲を刈っていきます。ご父兄の方々もこども達に負けじと頑張りました。こども達は、稲刈り中にカエルを見つけて捕まえたり、てんとう虫を見つけたり、都会では体験出来ないことを楽しんでいました。

みんな夢中で稲を刈っています。

「おーい、こんなに取ったよ！」



稲を刈り取った後は、ある程度の量をひとまとめにし、稲を束ねていきます。束ねた稲は、立てた棒に互い違いにバランスを取りながら積み重ね、天日で乾燥させます。美味しいご飯として食べられるようになるまでには、沢山の作業が必要なことを実感しました。



★稲刈り体験の感想
〈小学2年生〉

いねかりは、はじめにだけとおしえてもらったから、わかって、
やって見たり、ちょっとむずかしかったけど、いっぱい、たり、かたんに
やっていました。すごく楽しかったです。

〈ご父兄〉

とても貴重な体験が出来ました。毎日、当たり前のように
食べている お米。。 お米として食べられるまでには、とても
時間と労力がかかっていること 感じる 事。 できました。



「わあ、届かないよ！」

Report

2日目：被災地ツアー ～語り部さんのお話と津波の被災地を見学

2日目も雲一つない晴天に恵まれ、観光にいざ出発！
最初に訪れたのは、「志津川湾」。観光船に乗り、志津川湾の美しい景色を楽しみながら、カモメやうみねこにエサをあげる体験をしました。

その後、バスに乗って、東日本大震災の被災地「南三陸町」を見学し、「語り部（※2）」さんから当時の状況を教えて頂きながら、まだ震災当時のまま残っている建物を巡り、震災の怖さを実感しました。

次に訪れたのは、「登米みやぎの明治村」。洋風建築の木造校舎「旧登米高等尋常小学校」で、昭和30年代の給食と音楽の授業を体験しました。

今回の東北復興応援ツアーの体験をきっかけにして、ご参加の皆さんと復興応援を継続する事の大切さ、また東北の素晴らしさを沢山の方にお伝えすることで復興支援に繋がっていきます。



津波に襲われた当時の写真

（語り部さんのお話）
南三陸町の津波による犠牲者は566名、未だ310名が行方不明です。この3階建て防災対策庁舎の高さを超える津波が襲ってきました。

（※2）語り部：当時の状況を語り継いでいる人

★東北の皆さんへのメッセージ
〈小学3年生〉

じしんやつなみまけないでがんばっていただき、
おおえんしています。



エサはえびせん！



古い木造校舎で昭和30年代の給食を体験！



給食のメニューは、くじらの亀田揚げ、カレーシチュー、コッペパン、牛乳とミルメーク等

ファミリーマートは、事業活動を通じて常にお客さま、地域社会、そして地球を幸せにする存在となることを目指します。